

巻頭言

会長 浅田 里美

今年の夏は中途半端で、秋がすぐに来てしまいました。県士会でも新人研修が終わり、言語聴覚の日の取り組みも皆さんのおかげで無事終了できました。周りの人に言語聴覚障害や言語聴覚士について知っていただく事業でした。

「言語聴覚士」ってなんでしょう？私たちの何を知って頂いたらよろしいのでしょうか？皆さんは周りにどんなイメージを持ってもらいたいですか？どんな言語聴覚士になりたいのでしょうか？

少し前になりますが、ある学校の入学式で挨拶を頼まれ、言語聴覚士のイメージをどう伝えるか悩んだことがありました。そして、でてきたのが「アンパンマン」でした。

皆さんは、アンパンマンをご存じでしょうか？アンパンマンはやなせたかしという詩人が考え出したキャラクターです。

アンパンマンは、老人や子どもなど、いわゆる、社会的な弱者と言われる人の声を聞きつけ飛んでいきます。声なき人たちのニーズを正面から受け止め、上手にききとり援助します。

アンパンマンには、仲間がいます。必ず、一人では解決できずに、ショクパンマンやカレーパンマンに助けを求め一緒に戦います。チームアプローチができています。リハビリも必要なときは他職種へ助けを求め、1つの目的を達成します。

アンパンマンは、何度でもがんばります。神の手のような決定打はなく、その時々々のニーズに応じて、何度も、おなじ敵のバイキンマンに挑みます。ライフスタイルの変化や、ライフサイクルを考えて対応しています。

アンパンマンは、ともに喜びあえる人です。支援する人の笑顔を引き出すのはもちろん、自分の仕事に誇りを持ち、達成感を感じられることは大切です。これだからアンパンマンは止められないと思っているのではないのでしょうか？

こんな言語聴覚士に育って欲しいと思いつつ、自分はどうなんだと反省した瞬間でもありました。



『言語聴覚の日無料相談会』の意義について

山口浩明（柳川リハビリテーション学院）

日本言語聴覚士協会は、「言語聴覚障害や摂食・嚥下障害ならびに言語聴覚士について広く知っていただくことを目的に、言語聴覚士法が施行された9月1日を「言語聴覚の日」として、この日を中心として集中的な広報活動を行うことにいたしました」（日本言語聴覚士協会「言語聴覚の日」事業趣意書より）。

福岡県言語聴覚士会も3年前より「言語聴覚の日無料相談会」を開催し、3回目の今年は、福岡市・北九州市に加え新たに柳川市の3カ所同時開催しました。各会場の報告は他に譲り、ここでは「言語聴覚の日無料相談会」の意義について触れたいと思います。

① 「言語聴覚士を知ってもらうこと」としての意義

3会場合わせての来場者数は62名で相談者数は20名でした。単なるイベントとして考えると少ないと思われるかもしれませんが、しかし、前述したように「言語聴覚の日」の目的は、障害としての言語聴覚障害や職種としての言語聴覚士を広く知ってもらうことにあります。この目的からすると、今回の無料相談会は一定の成果を果たしたと思われるます。

「無料相談会をどのように知ったか？」という来場者アンケートには、図書館・駅・開催会場などの公共施設のポスターや幼稚園・保育園の先生・リハの先生というように口コミで来られていました。今回の無料相談会の広報は、これまで以上に公共施設や主要駅など一般の方々を目にとまるところに力を入れました。さらに、福岡県士会員にお送りしたポスターも、多くの施設で掲示され、宣伝効果はかなりのものではなかったでしょうか。

② 「気軽にこられる相談の場」としての意義

今回の相談者の半数は小児でした。親御さんにとっては、病院や相談機関は敷居が高いと思われるます。実際、施設につながった相談者の方も複数いらっしゃいました。今回のような無料相談会を望まれる声はますます増えると思われるます。アンケートでは、「皆さんがあたたかく接して下さり大変感謝した」「子どもが安心するような対応でした」「丁寧に教えてもらった」「子どもの発達レベルと今後の対応を教えてもらった」「話を良く聴いてもらえ、子どもも楽しそうに遊ぶことができた」など、大変好評な様子が見えがえします。

③ 「言語聴覚士や関連職種や当事者との交流の場」としての意義

今回の無料相談会にスタッフとして総勢約90名の方々に参加いただきました。それぞれのブロックで新人からベテランまで、普段顔を合わせることもないST同志が交流できたことも良かったと思います。また、今年から耳鼻科医の協力も得られ、各会場に相談員を派遣していただきました。さらに、失語症友の会（福岡・北九州のみ）や嚥下職や補聴器などの業者の方々にも参加していただきました。スタッフとして参加したSTにも意味のある相談会となったようです。

このように考えると「言語聴覚の日」のイベントを行うこと自体、将来の言語聴覚障害や言語聴覚士への認知度の向上に大いに役立っているのではないのでしょうか。継続させることが大切だと思います。

「言語聴覚の日無料相談会」 北九州会場報告

九州労災病院リハビリテーション科言語室 谷口 康

- ・北九州ブロックでは、昨年に引き続き「北九州市立障害福祉センター」で、2回目となる相談会を実施しました。
- ・当日ご協力いただいたのは、13名のST他、総合療育センター耳鼻科医安松医師、県失語症友の会小玉さん、(株)ユース、ヘルシーフード(株)、リオネットセンターの各業者さんなど総勢20名でした。
- ・相談件数は午前中に4件、午後からの相談者はありませんでした。残念ながら昨年度の相談会と同様に来場者は少数のままで著変ありませんでした。
- ・県士会では来年度もこの相談会を継続していく方針ですが、会場、広報、内容などの抜本的見直しを行い、効率的な実施の工夫が必要と痛感しました。
- ・相談者のアンケートからは、相談会の満足度が高く、こうした取り組みの継続を期待している旨の反響をいただきました。

言語聴覚の日無料相談会に参加して

高木病院 永江 信吾

私は昨年から無料相談会のスタッフとして参加しました。今年からは筑後ブロックで無料相談会が開催され、去年と同様にスタッフとして参加しました。そう参加者数は35名でした。

その中で、相談件数は5件で小児分野の相談が3件ありました。小児の発達相談が多かった理由としては、成人に比べ小児の場合はことばの遅れが気になっていても「どこに相談するか」ということが分からず、市役所の広報を見てくられたり、幼稚園の先生に勧められて来たのではないのでしょうか。

また、筑後ブロックでは相談会以外にも、「音響分析装置」は、大きな装置が必要と思い込んでいましたが、パソコン1つで音響分析ができることが分かり驚きました。日々の業務の中では、経験することが少なかった内容で、学生に戻った気持ちになりました。見学に来られた方も、様々なブースを体験されたのしまれていたようです。また今回は、柳川市の総合保健福祉センター「水の郷」という温泉施設も併設されている研修施設で実施しました。その関係もあり、施設内で遊ばれていた子どもさんたちも見学にこられ、一時賑やかになりました。

今後、この相談会を継続し実施することで、小児に限らずコミュニケーション面で不安を持ってある地域の方々の手助けになり、より多くの方々に言語聴覚士という仕事を知らせて頂きたいと思っております。

言語聴覚の日無料相談会 参加の感想

早良病院 池永 美希

9月6日(日)に開催されました「言語聴覚の日 無料相談会」(福岡会場)に初めて参加させて頂きました。福岡会場では34名の協力員が集まり相談や展示を行いました。私は成人の相談担当をさせて頂きました。

福岡会場では小児5件、成人3件の相談があり、その中の1件の相談を経験豊富な先輩STと2人1組になって行いました。病院では患者様を目の前にし、また、カルテなどから必要な情報も得られる状態で関わることができますが、担当させて頂いたそうさんはご家族のみの参加であったため、情報には曖昧な部分も多くありました。どう関わっていくべきか戸惑いましたが、ペアとなった先輩STはご家族の相談内容に傾聴し、必要な情報をうまく引き出し、的確なアドバイスをされていました。はじめの内は不安な表情で、時には涙を流される場面もありましたが、相談後は安心し満足した表情で帰って行かれたようでした。

また、面接を行っていない時間は他施設のSTの方々と情報を交換することができました。さらに今回から失語症友の会会員や耳鼻科医の参加もあり、その方々ともお話をする機会を持つことができました。

今回は臨床場面とは異なったSTとしての関わりをさせて頂き、多くの事を学ぶ機会がありとても有意義であったと感じます。しかし、同時にSTの認知度の低さも痛感しました。無料相談会の開催までに、病院や施設、駅などへのポスター貼りや雑誌の投稿、当日はどう配りまで行いましたが、相談件数は計8件に留まりました。ST数名での啓蒙活動には限界があります。私達、県士会員1人1人が啓蒙活動の意識を持つことで、STの活躍できる場がさらに広がり、STに関わる様々な障害について1人でも多くの方に理解を深めて頂けるのではないかと考えます。来年度以降も引き続き「言語聴覚の日 無料相談会」へ協力して参りたいと思います。

